

新1万円札発行に想う

— 渋沢栄一（表）と東京駅（裏） —

日本れんが協会 技術顧問 金子 祐正

群馬県コンクリートブロック事業協同組合創立70周年記念行事が10月11日、前橋商工議所で開催された。その際、首題に関わる記念講演を行ったのでその概要を紹介したい。

1. 渋沢のこれまでの紙幣との関わり

明治2年渋沢は、大蔵省（現財務省）に入り租税正（現国税庁長官）を任命され、税制改革で物納（米）から金納に改革した。また明治4年初代紙幣頭（現印刷局長）となり新貨条例を作成し1両を金貨1円とした。1円などの紙幣は、偽造防止のためにドイツやアメリカで作らせた。また銀行条例を作成し全国に153銀行（資本金5万円以上）を設立するなどお札とは深い関わりがあった。

2. 1万円札に選ばれた理由

(1) 優れた事業開拓力と組織力

渋沢は、企業の立ち上げに不屈の精神で挑戦した。例えば第一国立銀行（現みずほ銀行）では設立の翌年大口出資者が倒産して銀行は危機状態を迎えた。王子製紙（現王子ホールディング）では工場操業時に白紙が出ない、東京人造肥料（現日産化学）では肥料の効果が上がらないなど、いずれも技術不足で海外技術の調査を行ってそれぞれ見事に成功させた。一方組織力で順調に立ち上げた企業に東洋紡績（現東洋紡）がある。あらかじめ紡績技術取得のためにロンドン大学在籍中の日本人学生をマンチェスターの紡績工場に派遣して準備態勢を整えさせ、また富岡製糸場では渋沢ら深谷3人組による事前の盤石なる建設・管理体制が功を奏した例などがある。

(2) 先駆的に取り組んだ福祉・教育事業

経済発展に伴い発生する困窮者を救済するために明治6年に東京養育院（現東京都長寿医療センター）を設立して逝去するまで院長を務めた。また実業人養成のための東京商法講



▲記念講演会のようす



▲演題に立つ著者

習所（現一橋大学）を東京大学経済学部とする案や三菱の学校買収案に渋沢は鋭く反対した。なお一橋大学の創立記念日は渋沢が学校管理を預かった9月24日としている。女子教育では日本女子大学設立に関わり自ら女子寮を寄贈し、第一回運動会は渋沢の飛鳥山邸の庭で開催した。また外人向けに建てられた聖路加病院は関東大震災で全壊、渋沢は建設委員代表として昭和5年に再建（現旧館）した。